

粕谷和夫の観察日記。京浜急行「能見台」駅から歩いて20分。横浜市金沢区、長浜公園の野鳥園に行ってきた。横浜で初めての人工干潟を持つ汽水池、湧水を利用した淡水池やアシ原が林で囲まれていて4か所の観察窓口から野鳥を観察。サギ、カモ、カワウが多数羽を休めていました。カワウ1羽が大きな魚を丸呑みしていたのに驚きました。

紅葉台



新聞

第163号

2025年

1月3日

発行人：関谷 孝

『鎌倉アルプス』を歩く

上谷聡枝

訪れる度に新たな発見と出会う魅力溢れる街、鎌倉。寺社を巡る楽しみの他、北・東・西の三方を山に囲まれた鎌倉は、山歩きの楽しみも充実しています。今回は『鎌倉アルプス』(天園ハイキングコース)を歩きました。



建長寺から大塔宮バス停までの約2時間10分のコース。

このコースを選んだ理由は二つ、点心庵の『伝承建長汁』と獅子舞の紅葉です。

1つ目の理由、建長寺入り口近くの点心庵の『伝承 建長汁』(1200円)は、けん

ちん汁と鎌倉野菜の煮物、2個のおにぎりがお盆ののっており、食べると元気が出るお食事です(写真)。けんちん汁の発祥の地は皆さんもご存知の建長寺。また、このお店の奥には茶室がありゆっくり落ち着く空間が広がっています。



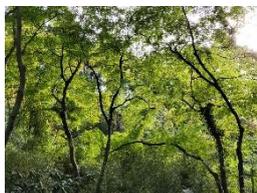
建長寺参拝の後、いよいよスタートです。

階段が多く露出した岩も多く鎌倉市の最高峰大平山(159.4m)を通り、所々の展望台からの景色に元気をもらいながら歩きます。

2つ目の理由、獅子舞に到着。なだらかに下る山道は左右一面の紅葉！！の予定でしたが

残念ながら時期が早かった。(11月19日現在)獅子舞は、鎌倉屈指の紅葉のスポットと言われています。時期が合えばカエデやイチョウの紅葉黄葉のトンネルを楽しめるでしょう。

ゴールの大塔宮バス停に到着。秋晴れの空の下、五感がフル回転した1日となりました。



粕谷和夫の観察日記

野山の紅葉が目立ってきました。これはメグスリノキというカ

エデの仲間です。いわゆるカエデの葉形ではありませんが、実は下の写真でわかるようにカエデの特徴である翼型です。昔から枝葉の煎液を目薬に使ったことからメグスリノキと名付けられました。紅葉が際立って美しく、山野だけでなく公園や庭園にも植えられます。



ジョウビタキの縄張り争い。冬鳥として北の国から日本に渡ってきたジョウビタキは1羽ずつ縄張りをもって越冬します。11月22日八王子・川町谷戸の田んぼ、オス2羽が縄張

りの境界で出合ったのか、お互いに威嚇し合っています。ここに肉食のモズが割って入ってきたため、ジョウビタキ2羽は別々の方向へ避難しました。鳥の世界の現実(生存競争)の厳しさが目前で展開しました。



このカラスはハシボソガラスです。八王子の小田野中央公園の片隅。口にクルミを咬んでいます。何をするのかと見てみると草株の中に隠しおいて立ち去りました。多分冬に備えた「貯食」だと思います。

落葉樹が秋、落葉前に「紅葉」するといいますが、実際には「黄葉」する植物の方が多いですね。この写真は、多摩ニュータウンの清水入緑地の雑木林で11月29日に撮ったものです。上はカクレミノ、下は黄葉の中に現れたメジロです。



「大きすぎるよ！カワセミ君」八王子・

湯殿川での一コマ。カワセミが魚をゲット。撮った魚が大きすぎて一気に食べられない。魚の背骨を何回も何回も何回も咬えた大きな魚を足元にたたきつけていたが、獲物が大きすぎて飲み込めない。この光景を数分見ていたが、飲み込めないのだからあきらめてこの場を立ち去りました。(帰りに見たら飲み込んでいました)



2025年は 散歩のすすめ

紅葉台新聞も3年目に入りました。「読者あつての新聞」

です。毎回皆様からのご感想や投稿をいただきどうにか続けることが出来、改めて感謝申し上げます。特に粕谷会長(八王子カワセミ会)の野鳥・植物・旅等とてもためになる話が読者から好評です。「おかげで歩いているときも上を見て野鳥に関心を



持つようになった」「植物も知ることが出来嬉しい」などたくさんのご感想が寄せられています。また、読者投稿も話題が豊富で双方向の新聞になっているのがいいなと思っています。これからは皆様からの投稿もお待ちしております。

紅葉台新聞は、環境・社会問題をはじめ地域の話・人物にも光を当てていきます。自分がテーマにしているのは、「水」「居心地のいい場所」「健康」です。これからも皆様に愛される紙面を作っていきますので今後とも愛読していただけますよう感謝と共にお願いいたします。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。